

全館統一展示

縄文



『Q&Aで読む縄文時代入門』

山田康弘／編 設楽博己／編
吉川弘文館、2024.5、ISBN:978-4-642-08449-9

土器を使用し、定住生活をし、狩猟・採集・漁労・栽培を営みながら、約1万3千年続いた縄文時代。最新の研究成果から見えてきた時代像を、54のQ&A形式で読み解きます。図とコラムも豊富。



『私の縄文美術鑑賞』

宗左近／著、新潮社、1983.5
ISBN:4-10-600242-6

詩人の宗左近氏は、縄文時代をこよなく愛し、縄文土器や土偶の収集家でもありました。生活必需品ではなく美術品としてそれらを受け止めた氏による、縄文美術の見つめ方についての一冊。



『週末の縄文人』

縄／著 文／著、産業編集センター、2023.8
ISBN:978-4-86311-375-6

現代の道具を使わず自然にあるものだけでゼロから文明を築く？ YouTube「週末縄文人」で人気のサラリーマン2人組が、週末限定の縄文時代を生き抜くサバイバル・エッセイ。「火の起こし方」などの実用コラムも収録。

力強い文様や、可愛らしさとミステリアスが同居する土偶など、現代の私たちを惹きつける魅力を持つ、縄文時代。西東京市には来年国史跡指定から10年を迎える「下野谷遺跡」があり、縄文時代中期には、南関東で有数の大集落であったことがわかっています。今年5月には熊本で、ほぼ完全な状態で当時の「人の骨」が発見され、さらに解明が進むことが期待されている“縄文”を、多種多様に楽しめる本をご用意しました！

『信州の縄文時代が

実はすごかったという本
—こんなことも知らなかった—

藤森英二／著、信濃毎日新聞社、2017.3
ISBN:978-4-7840-7299-6



国宝「縄文のビーナス」や国重要文化財「藤内遺跡の土器」など、縄文中期の傑作を多数出土した信州。その信州のことはもちろん、縄文時代の生活文化全般の入門書としてもおすすめできる一冊。うれしいオールカラー。

第20回

書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へつなげていく企画、第20回の文字は前回の書名から「べ」です。

『ベイク！

休日が楽しみになる焼き菓子レシピ』

(Yutaokashi 著／山と溪谷社／2023.2)

お菓子はレシピ通りに作れば簡単！なんて言いますが、肝心のレシピが難しかったり見たこともない材料が出てきたり……。こちらはお菓子作り初心者～中級者向けに丁寧にレシピを書いているので、今からお菓子作りを始めたい方や少しステップアップしたものを作りたい方にオススメ。最後にハロウィンやクリスマス用のレシピも掲載しています。

特集
1

特集
2

連載

お知らせ



Chiratto
Vol.49

2024年10月-2024年11月号

全館統一展示
縄文

印象派
Impressionism!

書名でしりとり

西東京市図書館からのお知らせ
FM西東京で紹介した本

印象派！ Impressionism!

『印象派の歴史 上・下』

ジョン・リウォルド／〔著〕 三浦篤／坂上桂子／訳
KADOKAWA、2019.8

(上) 978-4-04-400483-5、(下) 978-4-04-400484-2

1874年春、第一回印象派展が開催されました。これまでの伝統と権威に反旗を翻した作品に、人々は戸惑い、あるものは嘲笑しあるものは批評しました。そこから、全8回の印象派展を通じてどう変わっていったのか。光と色彩の新たな表現を信じた画家たちの歴史を丹念に辿った通史。詳細な文献目録も収録。

『原田マハの印象派物語』

原田マハ／著、新潮社、2019.6
ISBN:978-4-10-602288-3

アート小説といえばこの方を思い浮かべる人も多いのでは。元の経歴がキュレーターと聞けばそれも納得です。そんな彼女が、貧困、世評、病と闘いながら新しい道を切り拓いていった印象派の画家たちの物語を、作品とともに紹介します。

『印象派』

ジャン・クレイ／著 高階秀爾／監訳、中央公論社、1987.11、ISBN:4-12-001624-2

そうはいっても美術館は混んでいて……という方に、図書館ならではの大型本はいかがでしょうか。32cmの大きな図版と、『名画を見る眼』（岩波書店）でも有名な美術鑑賞の名案内人・高階秀爾氏による監訳をお楽しみください。

『大人のための 印象派講座』

三浦篤／著、新潮社
2024.3
ISBN:978-4-10-355581-0

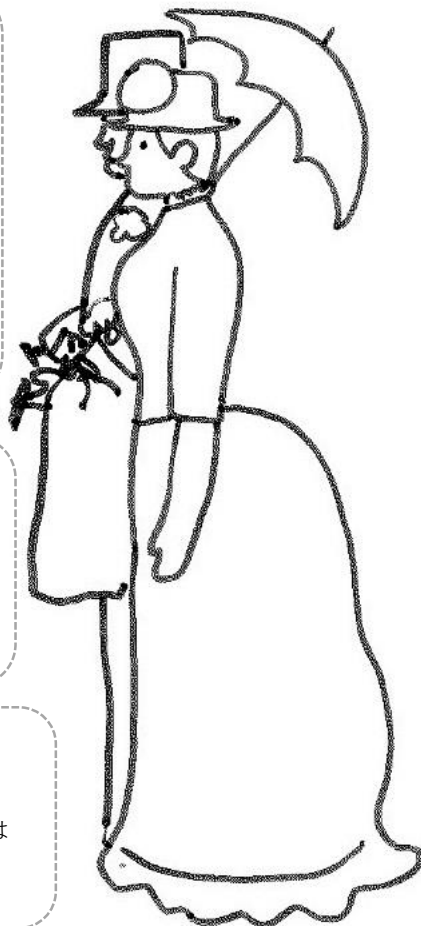
大原美術館館長である著者が、印象派の知られざる実像を掘り下げた一冊。印象派にまつわる女性、金銭、思想、制度、受容など、さまざまなテーマで読み解きます。

『かわいい印象派』

高橋明也／監修・著 杉山菜穂子／監修
東京美術、2016.3、ISBN:978-4-8087-1050-7

印象派の作品の中に「かわいい」がどう表現されているかを探る??一冊。美術館館長と学芸員の「かわいい」バトルもあり。

19世紀後半のフランスからうまれた芸術運動、**印象派**。色彩や光の印象を大胆に表現した作品は、今日多くの人に愛されています。今年是有名な印象派の作品が数多く来日しています。作品鑑賞がより充実する、そんな書籍をご紹介します。



お知らせ

【西東京市図書館講演会】開催します！
「すいせい」と「かがく」のアツい話

講師：鈴木雄大氏

日時：11/17(日)午後2時～4時

場所：田無公民館3階 視聴覚室 or Zoomによる配信

定員：50人ずつ(申込順)

申込：11/1(金)午前10時から、中央図書館へ来館・電話
または図書館ホームページの申込フォームから受付

※詳細は、図書館ホームページをご覧ください。

FM西東京で紹介した本

『透明人間 Invisible Mom』

山本美里／写真・文、タバックス、2023.12

著者の山本さんは、重い障害を持つ「医療的ケア児」の息子を育てています。小学校では、緊急時の対応のためずっと付き添う必要があります。それでいて、学校は教育現場であるため、なるべく気配をださずにじっと別室で「透明人間」のように待機するよう求められる毎日でした。山本さんは学校と交渉し、小学校内で自分自身を撮影し始めました。「私はここにいるよ。」山本さんの想いが心に突き刺さるような、時にコミカルで笑ってしまうような、写真と言葉がつづられた一冊です。

『ジャッカ・ドフニ大切なものを収める家 ーサハリン少数民族ウイльтаと「出会う」ー』

北海道立北方民族博物館／監修 高島屋史料館
TOKYO／編 図書出版みざわ、2024.8

かつて北海道網走に、北方少数民族のウイльта、ニヴフ、サハリンアイヌ等、サハリンに暮らした人々の生活や文化を伝える私設の資料館がありました。平成24年に閉館したのち、ジャッカ・ドフニの資料は一括して北海道立北方民族博物館に引き継がれました。この本は、その資料をはじめて東京でまとまった形で公開した、高島屋史料館TOKYOの展覧会の模様をまとめた作品です。

発行：西東京市図書館

<https://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>